

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立笹川小学校

校長 奥山 充人

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

本校は、一昨年度、笹川東小学校と笹川西小学校が統合し、四日市市立笹川小学校として新たにスタートを切りました。学校教育目標を「笹川に学び、笹川を愛し、笹川とともに歩む子どもの育成」とし、地域・保護者とこの目標を共有しながら、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを進めています。



2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

○ みまもりボランティア

笹川こどもみまもりたいの方が、学校とPTAと連携して、危険な交差点等に立って子どもたちの登下校時の安全を見守っていただいています。



○ 焼き芋・環境整備（おやじ倶楽部）

笹川おやじ倶楽部の伊藤さんにお世話になりました。秋には、1年生が収穫したさつまいもを石焼き芋にいただきました。子どもたちは、みんなで協力してさつまいもを収穫することの大切さや地域の方とのふれあいを楽しむことができました。また、法面除草など、環境整備もしていただきました。

○ 小中合同学校運営協議会の開催

昨年度から中学校区で、年2回、小中合同で学校運営協議会を開催しました。義務教育の9年間で、目指す子どもの姿を共有して教育を行うことができます。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

子どもや学校が抱える課題や地域で育てる子どもの姿などを協議し、地域と学校が何を実現していくのか等「学校教育ビジョン」を共有することで、明確な役割分担をもった連携・協働による取組ができました。学校の本来業務の見直しが進む中、「学校の応援団」として地域と学校がお互いに「当事者」となり、共通の目標に向かっていく「コミュニティスクール」としての意識の高まりを感じることができました。

3 今後に向けて

コミュニティ・スクールは、育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを保護者や地域と共有し、目標の実現に向けてともに協働していく仕組みです。そのために、授業参観や学校評価アンケートの結果、学校だよりやホームページ等にて、学校の情報を積極的に配信していきたいと思えます。また、教職員の働き方改革、教職員の定数不足の問題など、今日の教育における重大な問題等についても、議論を深め、コミュニティスクールの視点からできることはないかを模索していく必要があるとも感じます。